

## ■平成27年度第4回（第246回）都市経営戦略会議結果概要

【日 時】 平成27年7月14日（火） 午後4時00分～午後4時40分

【場 所】 政策会議室

【出席者】 市長、遠藤副市長、木下副市長、本間副市長、水道事業管理者、教育長、技監、都市戦略本部長、総務局長、財政局長、総合政策監、スポーツ文化局長

【議 題】（3）（仮称）盆栽アカデミーについて

### < 提 案 説 明 >

（仮称）盆栽アカデミーについて、スポーツ文化局から次のような説明があった。

- ・（仮称）盆栽アカデミーについては、昨年度の都市経営戦略会議において、盆栽への注目の高まりや学習ニーズに対する受け皿がないことから、その整備を課題として捉え、（仮称）盆栽アカデミーの目指す姿を、盆栽に関する知識と技術を体系的に学ぶ「盆栽専門の学習機関」とするという方向性について了承されたところである。
- ・この審議結果を踏まえて、検討を進め、「（仮称）盆栽アカデミー基本構想及び基本計画」を策定した。
- ・需要予測については、日本人向け講座は、「興味関心のある層」が1,070人でそのうち愛好家が535人とし、外国人向け講座は、「興味関心のある層」が161人でそのうち愛好家が8人との予測をたてた。
- ・海外盆栽愛好者のニーズを把握するために海外アンケートを実施したところ、費用と時間の負担を上回る便益をどのように提供するかという課題が浮かび上がり、そのためにはカリキュラムの完成度を高め、国内外の評価（実績）を上げていく必要があると考えている。
- ・需要予測及び海外アンケート結果から、コース設定に当たっては、まずはアカデミーの基礎を固め、そこから段階的にステップアップすることで、海外からの上・中級者の受入れを図ることとし、短期的には、日本人や在日外国人を受講対象として中級レベルを基本とするカリキュラムを構築し、中・長期的には、カリキュラムを上級レベルに発展させ、海外からの上・中級者の受入れを図ることを目標とした。
- ・カリキュラムについては、段階的に充実化を図ることとし、短期的には、基礎的な実技・講義を中心とした講座を開催し、中・長期的には、各レベルに応じた幅広いカリキュラムや著名な盆栽家による技術指導、日本文化史や美術史の講義等を行うことで、「世界最高峰の盆栽専門の学習機関」を目指すことを目標とした。
- ・その上で、大宮盆栽の伝統・文化を国内外に伝えること、国内外の盆栽愛好家のニーズに応えること、技術・文化を体系的に教えること、の3つを大きな方向性とし

た上で、8つの「基本テーマ」を設定し、それぞれ初級・中級・上級毎にレベル分けを行いながらカリキュラムを作成していく手順を考えたところである。

- ・ (仮称)盆栽アカデミーの実習・講義施設については、大宮盆栽美術館の講座室を第一候補と考えているが、講座室は使用頻度が高いことから、隣接する自治人材開発センターや盆栽四季の家との併用を想定している。ただし、これらの周辺施設についても利用率が高いことから、需要が増加した際には別途施設の確保が必要となる。
- ・ 一方、(仮称)盆栽アカデミーにおいては、実習・講義施設とは別に、教材としての盆栽を保管・培養する培養場や、屋外で盆栽の管理・育成方法を指導する実習場が不可欠となる。(仮称)盆栽アカデミーで使用する盆栽の鉢数は、講師用や受講生用など年間最大で500鉢程度を想定しているが、現在、大宮盆栽美術館の培養場は飽和状態であり、また見学等に供するものではなく、受講生の実習場としては使用できないことから、新たに培養場兼実習場の確保が必要になる。
- ・ 新たな施設の確保ということで、平成25年度に実施した基礎調査を踏まえ、盆栽町内にある3つの公共用地について、立地条件等に基づいて検討をした。その結果、(仮称)文学館用地が美術館に近く、(仮称)盆栽アカデミーの実習室・講義室及び培養場・実習場に最適であるとの結論に達した。なお、この(仮称)文学館用地は、盆栽村と美術館とを繋ぐ導線上に位置するため、地域の一体感の醸成や盆栽村の景観形成さらには伝統産業の振興にも寄与するものとも考えたところである。
- ・ この(仮称)文学館用地の整備については、発展段階的に進めていくこととし、まずは(仮称)盆栽アカデミーの開設当初から必要となる培養場・実習場として、盆栽を保管・培養する棚・ムロの設置、盆器・用土置場等の最小限の付帯設備の設置をしていく。その後、需要動向を見ながら、実習室・講義室の整備として、数十名規模の実習・講義が可能な研修施設及び付帯設備の設置を検討していきたいと考えている。
- ・ 今後の課題としては、管理運営体制の構築、在日外国人のニーズの把握、盆栽村全体を見据えた整備構想の検討が必要と考えており、今年度の事業化計画及び来年度以降の事業推進の中で検討していく。
- ・ 今後のスケジュールのうち各コースの開講時期については、東京オリンピックが開催される平成32年度までをひと区切りとしており、平成28年度末(平成29年2月)の開講を皮切りに、平成29年4月より日本人向けの初級・中級コースを開講し、順次、受講コースの拡充を進め、平成32年4月の外国人向け上級コースの開講をもって全コースの開講としている。
- ・ (仮称)盆栽アカデミーの開設・開講までの進め方については、平成29年2月の日本盆栽協会主催の「国風展」に合わせて開催する特別講座をもって開設とし、同年4月の世界盆栽大会に合わせて、日本人向け初・中級コースを開講することとし、今年度、策定予定の事業化計画において、3つの点を中心に検討していきたいと考えている。
- ・ 1点目は運営方法の検討であり、受講システムや受講料等について、学校経営のノウハウを有する東京農業大学との勉強会を通じ検討を進めていくとともに、併せて大宮盆栽美術館内におけるアカデミー担当の設置等を視野に入れた人員配置の検討

も進めていく。

- ・ 2点目はカリキュラムの作成及び講師の選定・確保についてであり、特に上級コースは専門性が高いため、盆栽園や大学など盆栽に関連する研究機関との連携・協力を図りながら検討を進めていく。なお、初級・中級コースのカリキュラムの設定は大学のノウハウを活かし、講師については大宮盆栽美術館の学芸員、盆栽技師及び盆栽園のスタッフを中心に考えていきたい。
- ・ 3点目は実習室・講義室及び培養場・実習場の確保についてであり、実習室・講義室については、今年度中に自治人材開発センターを所管する埼玉県及び市内の関係各所と協議を進めていく。培養場・実習場については、今年度中に（仮称）文学館用地を管轄する生涯学習振興課と協議の上、移管に向けた手続きを進めていく。

## < 意見等 >

- ・ （仮称）文学館用地については、大宮図書館に大西民子資料スペースができたことから、文学館以外で活用できるようになったとの理解でよいか。
- 教育委員会と協議したところ、文学館構想については既になくなっていくとのことであったため、（仮称）盆栽アカデミーの施設として選定したところである。
- ・ 講師の確保については、見込みは立っているのか。
- 当初は大宮盆栽美術館の学芸員、盆栽技師及び盆栽園のスタッフを考えているが、上級向けの専門的な実技などになると対応が厳しくなる。園芸や植物を専門とする大学教授などをお願いできると考えているが、盆栽のしつらえとなると盆栽界の重鎮をお願いせざるを得なく人材確保は慎重に進めたいと思っている。
- ・ カリキュラムの受講は有料か。
- 有料である。
- ・ 有料であることを記した方がよい。
- ・ （仮称）盆栽アカデミーについては、認可や許可は必要ないということによいか。
- そのとおり必要ない。
- ・ 有料で受講してもらうからには、それを生かす場などは考えていないのか。
- 認可証や大学のような修了証の交付はできないと思っている。受講の証明は出したいと思っているので、最終的に上級での証明が価値あるものとして生きるように、（仮称）盆栽アカデミーの価値を上げていきたいと考えている。
- ・ 初級あたりは経験した証でよいのかもしれないが、海外からわざわざ来て上級を受ける者は、技術の習得のほかに、その結果を活かすことを求めるのではないか。
- まだ、そのあたりは整理できていない。（仮称）盆栽アカデミーのレベルを上げていく必要性は認識しているので、その方法について検討していく。
- ・ あくまでも愛好家向けということで、例えば上級を卒業したら盆栽業界で雇ってもらう仕組みまでは想定していないということによいか。
- 専門学校のように資格が与えられると一番よいが、長期的なカリキュラムが必要であり、何より盆栽園ごとに技術も異なるので今後検討していきたい。
- ・ （仮称）盆栽アカデミーについて、盆栽関係団体からの意見聴取などは行っているか。

- 今年度、事業化を検討していくに当たり、日本盆栽協会をはじめ盆栽の各種関係団体から、講師の派遣や内容、また、権威づけなども含めて意見を伺っていきたいと考えている。
- ・ イタリアにも盆栽芸術学校があるが、どのような形で行っているのか。
- 1つは、業者が盆栽普及のために学校を開き講習を行っている。もう1つは、地元の盆栽業界が開いており、当初10年間位は日本人が赴き指導に当たり、現在は現地の方が講習を行っている。そのほかいくつかの国で盆栽に関するスクールのようなものがあるが、本市の(仮称)盆栽アカデミーの上級コースで目指す学術的な内容にはなっていない。そのため、外国人アンケートを見ても、上級向けの内容を期待して日本への滞在を希望しているようである。
- ・ そのような意味からも関係団体との連携も進めてもらいたい。世界盆栽友好連盟認定など、運営面も含めて協力してもらおう方向で進めてもらいたい。
- ・ この計画書では、管理運営体制について開設当初から本市直営を検討すること、(仮称)文学館用地の整備における拡充段階なども記載しているが、これらの人的、財的な検討を要する事項については、事前に、関係所管と十分に協議しているのか。
- 関係所管との協議はまだこれからであるため、計画書については少し見直したい。

## < 結 果 >

- ・ スポーツ文化局発議の(仮称)盆栽アカデミーについては、(仮称)盆栽アカデミー基本構想及び基本計画を修正の上で、開設・開講に向けての作業・検討を進めていくことを了承とする。  
なお、拡充段階においては、その都度改めて都市経営戦略会議への付議を要するものとする。

## < 会 議 資 料 >

- (資料1) (仮称)盆栽アカデミーについて
- (資料2) (仮称)盆栽アカデミー基本構想及び基本計画
- (資料3) (仮称)盆栽アカデミーについて 概要版